

ムイクウ え・に・わ



こ の 人 に 会
い
た
い

命の宝を生む緑 それをコツコツと 育てていきたいんです。

坂本 一雄さん 駒場町在住

●さかもと・かずお (71歳)
恵庭出身。防衛庁事務官を退官後、樹木医師を目指し勉強を始め、平成14年には樹医博士の認定を受ける。現在は、恵北中学校の樹木の保護や管理を行うほか、『こどもふれあい農園』の園長として忙しい毎日を送っている。

「樹も野菜も、すべては土が重要。それで土作りに興味が出たんです」と話す坂本さんは、もともと樹木のほか菜園にも興味があり、家庭菜園から始めて、そのキャリアは

子どものころ、トンボを追いかけるながら走った原っぱは、すっぴり姿を変え、市街地となってきた。そんな街中にありながら、樹木や草花、土にこだわりながら野菜や花の栽培をしている人がいる。樹医博士の坂本一雄さんだ。
現在、坂本さんは恵北中学校にあるアカマツやオンコ、サクラなどを診察し、せん定するなど樹木を保護する樹医博士として活躍している。
そのほか、市が主催する『こどもふれあい農園』では、子どもたちの農業体験のボランティアとしても活躍。ボランティアとして参加して10年にもなる。毎年5月から10月までの開園期間中は、子どもたちと一緒に米やジャガイモなどの作物を作り、同時に子どもたちの成長を見守ってきた。

おじいちゃん、おばあちゃんへ

「結婚記念日おめでと。また二人で遊びに行くから、一緒にお昼ごはんを食べようね。このあいだ一緒に植えた花の種はいつ咲くのかな。きれいな花が咲いたらいいな」

堀 達郎くん (左) - 5歳 -
堀 周平くん (右) - 2歳 -

伝言
でる
TEL

自宅にて

じーたん、さーやへ

「ほく、大きい自転車も乗れるようになったんだよ。今度泊まりに行ったら、一緒に札幌駅までサイクリングに行こうね。電車もいっぱい走っているし、行くのが楽しみだな」

佐々木 祐哉くん (右) - 5歳 -
佐々木 遙斗くん (左) - 2歳 -



「みんなでおさんぽ」

植田 菜央 ちゃん (4歳)



「えるなちゃんとママ」

岩佐 瑛琉南 ちゃん (4歳)



ちびっこギヤラリー

こすもす保育園児作品

50年にもなる。今では、自分で種を採りトマトやナンバンの品種を改良するほどである。

毎年「恵子ガーデン」と名づけられた17アールの自家菜園には、100種類を超える野菜と花が植えられている。農薬も堆肥も全く使わず土壌と作物が持つ本来の力で、柔らかな栄養たっぷりの土を作る。そしてそこへ、自分で採った種を植え、実った作物をおいしく無駄なく食べる、これが坂本さんのこだわり。

恵子ガーデンで農作業をしていると、近所の子どもたちが坂本さんの姿を見つけ駆け寄ってくる。子どもたちは、そこで坂本さんから野菜の採り方を教えてもらったり、実った野菜を一緒に食べたりもする。

そんな子どもたちの中には、畝を踏み荒らしたり、野菜や草花を手荒くちぎったりする子どもはだれもいない。子どもたちは「命を育む」ということを理屈ではなく本能で理解しているのだろうかと言います。

「子どもたちには、畑の中でしてはいけないことを何度もくりかえし教えます。毎日、口にすれば食べ物も、生き物なんだよと

伝えるだけです。それだけで子どもたちは、自然と作物を大切に扱ってくれるんですよ」と話す。

人は、あらゆる自然の中にあるものの命を源に生きている。米も野菜も命ある自然の恵み。坂本さんは、恵子ガーデンで子どもたちと過ごす時間や、子どもふれあい農園の活動の中で、子どもたちに食べることに自然の関わりを伝えている。

「これからは、少しずつでも樹木や花などの緑を育てて、増やしていくことで50年後、100年後の子どもたちへ豊かな自然環境を残していきたいんです」と話す坂本さんの瞳は、未来へ向けて輝いていた。



昨年行われた「こどもふれあい農園」での様子。子どもたちは初めて体験する田植えに歓声を上げながら取り組んでいました。

郷土資料館 えにわの宝もの

第七回 く石臼

どんな時代でも「食」は生きることを支え、家族をつなぐ大切なものです。食文化は時代や地域によって異なります。今月紹介する石臼は、その食文化の一端を伝えていきます。

今では「そば」や「うどん」といえば、いつでも出来上がった麺を買い、すぐに調理して食べることが出来ます。しかし、少し時代をさかのぼると、手間をかけて、そばの実や小麦を栽培、製粉して麺を作らなければ食べることができなかつたのです。

そこで、製粉道具として力を発揮したのが、石臼です。当時、石臼はとても高価なものでした。石臼が家庭に1台あることで、食生活で豊かなものにしてくれました。



そばの実や小麦を石臼で挽く作業は根気のいる大変な仕事でした。さらにそば粉や小麦粉を麺にするには、またひと手間が必要です。石臼は、開拓時代の原点を教えてくれます。